

Annual

B u l l e t i n

東海大学文明研究所所報 2024

Report

2024

戦争と民衆

山本 和重

文学部歴史学科日本史専攻教授

2023 年度から、共同研究「戦争の人間学的研究」を始めた。2022 年 2 月 24 日のロシアの侵攻によるウクライナ戦争の勃発がきっかけであった。とくにテレビや新聞などで報道されるロシア国民の戦争支持熱の高さについては、考えさせられるものがあった。

戦争と民衆との関わりは、私の歴史研究の出発点で、1985 年提出の修士論文は昭和恐慌・満洲事変と社会運動との関わりを扱ったものであった。現在の歴史書も同様であろうが、満洲事変を契機として日本国内において戦争熱・排外主義が高揚し、そうした民衆の軍部支持が、日本の政治・社会体制の軍国主義化・ファシズム化に繋がったとされていた。とくに、昭和恐慌下で経済的に追いつめられていた底辺民衆こそが排外主義的とする指摘が有力であった。私の研究対象は無産政党や労働組合で、確かに満洲事変をきっかけに国家社会主義や日本主義への転向がみられた。しかし、政党や労働組合の幹部層を中心に転向が発生するものの、単位組合の下部組織（支部）は比較的冷静に事態を受け止めていて、国家社会主義に同調する動きは少なく、そこから底辺民衆こそ排外主義的とする指摘への異論を提示した。そして、戦争支持熱が社会的に高く、戦争反対を正面から訴えるのが困難な状況の下において、どのような運動が可能であったのかを研究課題とした。労働組合原資料を読むなかで見出したのが、出征兵士家族の救済運動であった。召集令状によって出征した組合員の家族の経済困窮を救済するための、反戦表現は控えた現実的な運動で、そうした運動を展開した勢力が、1935、6 年の日本における反ファシズム人民戦線運動の担い手であった。一見して、戦争支持に見えるもののなかにある非同調的な動き、異質なものの存在。現在のロシアの人びとを見る上でも、そうした視点があっていいように思う。

ウクライナ戦争はすでに 3 年を超え、ウクライナの人びとの多様な姿も報道されるようになった。2 月 24 日付朝日新聞の「ロシアは許せない でも、もう」という記事に「街に兵士勧誘のバス 外出控え」という見出しで、次のような記述がある。兵力不足のなかで、動員のために強制的にバスに乗せられることがあり、「これを避けるため、声をかけられたら走って逃げたり、そもそも外出を控えたりする人たちが後を絶たない」というものである。日中戦争下の中国における兵力動員を想起させられた。笹川裕史・奥村哲『銃後の中国社会 日中戦争下の総動員と農村』によれば、徴兵逃れ対

策として、壮丁（成人男子）は縛られて連行され、武装した男たちが周囲を囲んで護送したという。ウクライナにとってはロシアによる侵攻への、日中戦争期の中国の場合は日本の侵略への抵抗という「正義」の戦争といえるであろうが、戦争においては「正義」の側にあっても、不可避免地にダーティーな面が現出する。共同研究では侵略された側の民衆の多様な経験ということも視野に入りたい。

侵略した側、された側という類別とは別に、境界地域の民衆と戦争との関係という問題もあろう。昨年の 3 月 26 日に予定していた歴史学科西洋史専攻の川崎亜紀子先生による研究報告は、先生のご入院とご逝去により叶わなかったが、本年 1 月 25 日に開催された偲ぶ会で、生前に撮影された高校生を対象とする模擬授業「フランス人？ ドイツ人？ それとも一」を拝聴できた。普仏戦争でドイツの領有となり、第 1 次大戦後にフランスに返還され、第 2 次大戦時にドイツに占領されたアルザス人の経験についてのものであった。第 1 次大戦では 38 万人のアルザス人がドイツ軍に従軍し、東部戦線に投入された。戦後にはアルザス人はフランスとの近接度によって A・B・C・D の 4 種類に区分され、ドイツ人に従軍したある人物の場合、フランス人の父は A、ドイツからの移住者である母は D、本人は B とされた。戦争がこうした地域の住民に及ぼした影響も甚大であろう。また境界地域には帰属の曖昧な人びとも居住する。日露戦争後に日本領となった南樺太には、さまざまな少数民族が居住していた。1924 年に南樺太にも徴兵令が施行され、アイヌは徴兵の対象とされたが、ウィルタ（オロツコ）、ニヴフ（ギリヤーク）は「言語風俗等ノ関係」から対象外とされた。しかし、アジア・太平洋戦争期には、そうした人びとも対ソ戦謀報のため、特務機関要員として動員された。その一人であるウィルタの青年ゲンダーヌ（日本名北川源太郎）は、戦後はソ連の軍法会議で 8 年の刑に処され、刑を終えた後はソ連領となった樺太を離れ、網走に移住することになる（田中了／D・ゲンダーヌ『ゲンダーヌ ある少数民族のドラマ』）。

侵略した側、された側、境界地域。それぞれが属する国家・地域、そしてそれぞれの戦争への対し方によって、民衆の戦争経験は多様であろう。しかし同時に、国家の論理とは異なる、敵・味方の別なく共通する真摯な営みがあって、そこに「希望」もあると考えたい。

文明研究所の研究プログラム

文明研究所は、本学の創設者松前重義博士の意思を受け継ぎ、学内外の幅広い分野からの研究者を結集して、過去の文明、現代文明が抱える諸問題、将来の文明のあり方について総合的に研究する機関です。

当研究所の発足は 1959 年に遡ります。研究所規則第 2 条に、「研究所は人類文明という包括的事実を、人文、社会、自然諸科学の協力によって探究し、文明学という新しい学問的理想を完成発展させることを目的とする」と記されている通り、遠大な構想のもとに設立されました。

世紀が変わって 2001 年には現在の文明研究所に近い形態となり、これ以降「21 世紀文明の創出」という研究テーマのもと、2013 年度まで、おおよそ 3 年を 1 期とする研究プロジェクトを策定し、研究を推進してきました。第 1 期（2001 年度～2004 年度）は「現代文明の展開と社会文化的多様性」、第 2 期（2005 年度～2007 年度）は「グローバリゼーションと生活世界の変容に関する総合的研究」、第 3 期（2008 年度～2010 年度）は「対話と共生を理念とする新しい社会の構築」、第 4 期（2011 年度～2013 年度）は「創造すべき 21 世紀文明」でした。2014 年度からは、本学の第 II 期中期目標（2014 年度～2017 年度）を受けて、「文明とグローバリゼーション」をテーマとして掲げ、共同研究を進めました。

2016 年 4 月には、総合社会科学研究所の設置にともない、人文学を中心として本研究所の研究活動を再編し、進めていくことになりました。「人文学の活性化」と「本学所蔵の文明遺産の活用」を 2 つの柱として、共同研究を推進しています。2024 年度から、前者は 2 件のコア・プロジェクトを設置し、多分野からの学際的な協力を得て、新しい人文学方法論の構築と具体的研究の展開を進めています。後者についても、以前からのプロジェクトを発展的に再編して 2 件のコア・プロジェクトとし、本学が所蔵する古代エジプト及び中近東コレクションとアンデス・コレクションそれぞれの保管・整理を行うとともに、本学のマイクロ・ナノ研究開発センターとの連携研究や、展示会の開催などを行っています。

2024 年度は、コア・プロジェクト 4 件を以下の通り推進しました。進捗状況については本誌の報告概要をご覧ください。

- コア・プロジェクト①「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」（代表：山本和重）
- コア・プロジェクト②「『さわる』ことから感性の多様性を構想する人文学」（代表：篠原聡）
- コア・プロジェクト③「古代エジプト及び中近東コレクション（AENET）を軸とした学術的研究と公開促進」（代表：山花京子）
- コア・プロジェクト④「アンデス・コレクションの学術的研究と公開促進」（代表：吉田晃章）

2024 年度の研究プロジェクト

「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」 (コア・プロジェクト 1)

本プロジェクトは、本研究所の活動の二本柱の一つである人文学の活性化を担うものであり、昨年度から名称を新たにスタートし、各班の観点から「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」を進めた。この名称は、近年アカデミアの内外で人文科学（および文系全般）に向けられる厳しい論調に対して、人文科学の側から現代社会の要請に回答する新たな研究知見とその方法を提示することを意図したものである。本プロジェクトでは現代社会のあり方やさまざまな問題への取り組みを中心に、新たな方法論や知見の獲得を目指している。なお、コア・プロジェクトの再編にともない、本年度は2つの班で以下の通り活動を展開した。

「人新世 (Anthropocene) における人文知」班

服部泰・平野葉一・平木隆之・小川恒夫
李昭知・安達未菜・二重作昌満・森園奈央
鷹取勇希・中嶋卓雄・中村朋子・渡辺青
Yan Lespoux・Laiana Wong・Margie Maaka

本研究班では昨年度から「人新世 (Anthropocene) における人文知」をテーマに掲げて研究活動を展開してきたが、2年目の今年度も以下の2点から研究を進めた。

- ・ Part 1 「超領域人文学をふまえた総合知の研究」今日の人文知の問題を人間営為との相関から複合的に捉える研究
- ・ Part 2 「環境と QOL の研究」昨今の環境問題に対し、人々が自らの生を満足しながらその対策に向かえる社会の在り方についての研究

2024 年度は、研究班メンバーでの研究会を継続して開催しながら（計7回）上の2つのテーマの検討を行った。《Part 1》では、広範な領域からの研究について学会報告等を行った。とくに外部資金「くら基金」の助成を受け（安達）、フランスから研究者を招聘して「国際シンポジウム：第5回文明間対話ーフランスの近代化と地域多

様性」を開催した（2025 年 1 月 12 日）。《Part 2》では、とくに 2024 年 9 月に開催された国際会議 ICIC2023 において「Environment and QOL」セッションを開催し、研究報告を行った（Online 開催）。これらの研究については、最終的には学会誌、文明研究所の和文誌（『文明』）、欧文誌（『Civilizations』）に論文を掲載するに至った。なお、今年度は1名の大学院生が国際会議 ICIC2023 に参加し、研究成果を論文として発表した。

今年度の研究成果は以下のとおりである。

【学会活動】

[1] 国際会議 ICIC2024 (18th International Conference on Innovative Computing, Information and Control) (2024 年 9 月 12 日、中国、Online 参加)、口頭発表 5 件

- ① Toru Hattori, Yoichi Hirano, Takuo Nakashima, Mina Adachi and Hota Moriya, "An Essay on the Use of Social Capital in the Development for Trans-locality — Through the Case Study on the '2024 Noto Peninsula Earthquake'—"
- ② Soji Lee, "Proposal for Sustainable Tourism Using Social Capital in Hokkaido"
- ③ Hota Moriya, "The Current State of Social Capital in Kanagawa Prefecture and Zama City"
- ④ Masamitsu Futaesaku, "The 70-Year History of Changes in Japanese Leisure Activities — A History of Toho's 'Godzilla (1954)' Movie Series —"
- ⑤ Yuki Takatori, "A Consideration of Art Expressions from the Viewpoint of 'Aloha 'Āina' "

[2] 国際シンポジウム International Symposium: The 5th Dialogue between Civilizations -Modernization and cultural diversity in France (2025 年 1 月 12 日、東海大学品川校舎)、研究班メンバーおよび招待者で、第1部 Symposium にて3報、第2部日仏研究交流会にて2報、計5報の研究報告

- ① [Keynote Lecture] Yan LESPOUX, "For whom dose the Felibres sing? The Felibriges and the modernization of the Occ space in the second half of the 19th century"
- ② [Related Reports 1] Mina ADACHI, "Modernization of France and the

sustainability of regional cultures”

- ③ [Related Report 2] Yoichi HIRANO, “An essay on the situation of the south of France in the modernization in the 19th century”
- ④ [Discours introductif 1] Kiyoshi HARA, “Situation des langues celtiques au XIXème siècle et leur renouveau”
- ⑤ [Discours introductif 2] Naoko SANO, “Un camin cap a la lenga occitana passat per una japonesa - la modernisation d’une langue minoritaire eau”

[3] 国内学会

第 42 回比較文明学会大会 (12 月 22 日、明治大学)
にて 2 報の研究報告

- ① 平野葉一・中村朋子・服部泰・渡辺青、「下村寅太郎のブルクハルト解釈と学問論—文明論における人文知の一つの系譜として—」(グループセッション)
- ① 安達未菜、「1870 年以降のプロヴァンスとカタルーニャの地域主義者間の交流」

【欧文誌】*Civilizations*, No. 35 (2024) (刊行準備中)
Toru Hattori, Mina Adachi, Yuki Takatori, Yoichi Hirano:

“International Symposium Report: The 5th Dialogue between Civilizations: Modernization and cultural diversity in France”

Yan Lespoux:

“For whom does the Félibres sing? the Félibrige, the modernization of the Oc space and the people in the second half of the 19th century”

Mina Adachi:

“Modernization of France and preservation of regional cultures”

Yoichi Hirano:

“An essay on the modernization of southern France in the 19th century”

Soji Lee:

“Role of Social Capital in Influencing Tourist Satisfaction and Revisit Intention in Hokkaido”

Sei Watanabe, Yoichi Hirano:

“Synthetic knowledge in civilization studies”

Manasisha Pengsom:

“A Study on the Use of Manga and Anime in Japanese Society”

International Symposium:
The 5th Dialogue between Civilizations
Modernization and cultural diversity in France
January 12, 2025
Shinagawa Campus, Tokai University

After the French Revolution, as the central government implemented a policy of unification, movements to preserve and revive language and culture derived from historical traditions developed, especially in the south of France. The wave of the Industrial Revolution also brought about major changes in the culture and civilization of each region, as it marked the beginning of modern civilization based on science and technology. This symposium will examine the preservation and change of regional identity amid modernization, from a viewpoint of current issues.

13:00-15:30 (in English)
Session 1: Modernization and cultural diversity in France
Keynote speaker: Yan LESPOUX
Associate Professor, Lecturer in the Occitan department at the University of Paul Valéry-Montpellier III and member of the ReSO laboratory.
A recent bibliography: *Pierre-Louis Berthaud : un occitaniste dans le siècle, le borde l'eau*, Bordeaux, 2019.

Panelist: Mina ADACHI
Assistant Professor, Tokai University
Panelist: Yoichi HIRANO
Inviting Professor, Tokai University

Discussant: Kiyoshi HARA
Emeritus Professor, Joshibi University of Art and Design
Discussant: Naoko SANO
Professor, Aichi Prefectural University

Chair: Yuki TAKATORI
Assistant Professor, Toyo University

16:00-17:30 (in French)
Session 2: Research Exchange
Chair: Mina ADACHI, Yoichi HIRANO

Date: Sunday, January 12, 2025, 1:00 p.m. - 6:00 p.m.
Venue: Tokai University, Shinagawa Campus, Bldg. 2 Auditorium (Large Lecture Room 2B101)
2-3-23, Takanawa 2-chome, Minato-ku, Tokyo 108-0074, Japan
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/campus-shinagawa/>

Organizer: Institute of Civilization Research
General Manager: Toru Hattori, Implementation Manager: Mina Adachi
Contact: Symposium Secretariat, Institute of Civilization Research (e-mail: adachi.mina.m@tokai.ac.jp)
◆ This symposium is supported in part by Public Promoting Association Kura Foundation, and Tokai University Research Organization.

「戦争の人間学的研究」班

山本和重・篠原聡・小林元裕
三輪太郎・吉井大門・馬場弘臣

2022 年 2 月にロシアのウクライナ侵攻によってウクライナ戦争が勃発した。2023 年 10 月にはパレスチナのガザ地区を支配するハマスとイスラエルとの間の衝突が、長期にわたる戦争へと発展した。21 世紀の現代においても、「戦争」は人間にとって依然としてリアルな事象であり続けている。「人文学の活性化」を研究活動の柱の一つとする文明研究所として、2023 年度から「戦争」を人文学の見地から多角的に検討する共同研究「戦争の人間学的研究」班を設けた。本共同研究では、戦争に関わる基礎的な事実を解明するとともに、戦争というものを人びとがどのように表象したのか、とりわけ排外主義などのステレオタイプな表象とは異質な、多様な表象に着目することに留意している。

本年度は下記の研究会を開催した。(第 2 回研究会は、2024 年 3 月 26 日に、文学部歴史学科西洋史専攻の川崎亜紀子教授の研究報告「フランス・ユダヤ人社会と第一次世界大戦をめぐって」

として開催の予定であったが、川崎先生のご入院とご逝去のため、叶わなかった。川崎先生のご冥福をお祈り申し上げます。)

第2回研究会

(2025年2月27日 15:20～17:45)

山本和重「日中戦争期における馬匹の徴発と軍馬の表象」

第3回研究会(予定)

(2025年3月28日 14:30～17:00)

シンポジウム「昭和戦前期の日本画 鎭木清方門下の青衿会の活動と尾中廬山の戦争画」

吉井大門「昭和戦前期の美術団体 青衿会について」

今西彩子「鎭木清方と尾中廬山について」

篠原聡「尾中廬山の戦争画」

『さわる』ことから感性の多様性を 構想する人文学」 (コア・プロジェクト2)

「美人画」班

篠原聡・角田拓郎・今西彩子
吉井大門・田中知佐子

昨年度までの個別プロジェクトを2024年度から新たにコアプロジェクトに移行した「美人画」班では、美人画という観点から日本近代美術史研究の再構築を目指している。美人画を含む人物画に関する研究は近代日本画の成立史を再考する上で重要な研究領域である。本年度は主に、(1) 羅馬開催日本美術展覧会に関する調査研究報告書



の作成と、(2) 基礎研究として尾中廬山に関する踏査及び作品修復に関する調査及び研究会(3月開催)を実施した。また、(3) 共同研究者の角田が日本近代美術に関する国際発表等を実施した。尚、研究成果の一端として2024年度「出光文化事業財団 美術品修復保存助成(不採択)」、2025年度「鹿島美術財団 美術に関する調査研究助成」及び「三菱財団 文化財保存修復事業助成」への申請につながった。

- (1) ローマ展特集号『美術研究』(445号)、東京文化財研究所、2025年3月刊行予定
- (2) 尾中廬山に関する踏査(2025年1月12日～14日)
美人画に関する研究会(2025年3月予定)
- (3) Takuro Tsunoda「Symposium: Meiji Art and Visual Culture One More Golden Age in the History of Japanese Lacquerware」(シカゴ大学、2024年5月4日)



「ユニバーサル」班

篠原聡・田中彰吾・西本健吾・広瀬浩二郎
原礼子・栗川治・田中実紀

視覚優位の生活世界のなかで「触覚」の観点から「感性」について考察し、ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の実現を構想することを目指して2024年度に新たにコアプロジェクト2に設置された。今年度は(1) 三井記念美術館にて開催された特別展「五感であじわう日本の美術」の関連イベントとして「五感を研ぎ澄ます 鑑賞体験ワークショップ」を開催し、(2) 直方谷尾美術館(福岡県直方市)にて開催された

特別展「ユニバーサル・ミュージアム ーさわる！ “触”の大博覧会 直方巡回展 2024」にて若手研究者を含む同班メンバーによる研究会を開催した。また、(3) 共同研究者の栗川が障害学に関する国際発表等を実施した。尚、研究成果の一端として研究分担者として 2025 年度科研基盤 C『『彫刻をさわる時間』のワークショップ等を通した新たな「美術」体験の創出（研究代表者：田中修二）』、基盤 B「触覚的感受に基づく彫刻表現論の拡張：空間把握と身体性が導く能動的鑑賞を求めて（研究代表者：宮坂慎司）」への申請につながった。

(1) 2024 年 8 月 10 日 「五感を研ぎ澄ます 鑑賞体験ワークショップ」

(2) 2024 年 8 月 17 日、18 日 「ユニバーサルな学びに関する研究会」



(3) KURIKAWA Osamu, The movement of teachers with disabilities to guarantee the "right to work" and issues of reasonable accommodation in Japan, East Asia Disability Studies Forum (EADSF) 2024 Oct 25, 26(Fri, Sat) 2024, Chang Yung-Fa Foundation International Conference Center, Conference Room 601, Taipei.



「身体性を起点とする学際人文学」班

田中彰吾・北條芳隆・白川美冬・三枝信吾
東海林恵子・入來篤史・今宿未悠

この班は、身体性認知の観点から「感性」について考察し、新たな人文学を構想することを目指して 2024 年度に新たにコアプロジェクト 2 に設置された。身体性認知は、人間の認知活動が身体的過程および身体と環境の相互作用によって影響されていることを重視する認知科学の立場である。今年度は、(1) アーティストの今宿未悠のパフォーマンス作品「熱触療法」を題材とする研究会を開催し、(2) 現代芸術に関する国際会議において、身体性認知の観点からパフォーマンス・アートを読み解く講演を班長の田中が実施した。

- (1) 2024 年 8 月 6 日, 「身体性を起点とする学際人文学」研究会
- (2) 2024 年 10 月 7 日, Shogo Tanaka
“The enactive approach meets art: The phenomenology of one-time performance”
Resisting the Divides: Contemporary Philosophy of Art, Brooklyn College CUNY, New York.

〈開催した研究集会〉3 件

- 1) 美人画に関する研究会 (2025 年 3 月予定)
- 2) ユニバーサルな学びに関する研究会 (2024 年 8 月 17-18)
- 3) 「身体性を起点とする学際人文学」研究会 (2024 年 8 月 6 日)

〈発表・講演〉22 件

- ・国際会議等での発表 3 件
- ・国内学会での発表 9 件
- ・招待講演 (シンポジウムへの登壇含む) 10 件

〈論文等〉12 件

- ・論文等 11 件
- ・博士論文 1 件

〈学術書・報告書等〉4 件

- ・図録 1 件
- ・批評集 1 件
- ・研究報告 2 件

〈展覧会〉

- ・6 件

〈ワークショップ〉

- ・13 件

「東海大学所蔵古代エジプト及び 中近東コレクション (AENET) を軸とした 学術的研究と公開促進」 (コア・プロジェクト3) 山花京子

本プロジェクトは 11 号館に収蔵されている古代エジプト及び中近東コレクション (AENET) (以下、エジプト・コレクションとする) の活用に関わる環境整備と保全を主たる目的とする。さらに、これらのコレクションを軸に教育普及活動、研究会や講演、シンポジウム等を展開している。2024 年度は

東海大学チャレンジプロジェクトの学生団体である Egyptian Project と緊密に連携を行いながら、一般に対する教育普及活動も頻繁に行った。

啓蒙・社会貢献活動

1) エジプト・コレクションの HP

<https://egypt.civilization.u-tokai.ac.jp>

新情報を随時アップロード中

HP サイトから問い合わせや資料閲覧申請は 6 件あった。そのうち、1 件は国際ジャーナルにリファレンスとして掲載された (研究活動・研究集会 5) 参照)。

2) SNS を利用したコレクション情報普及

受験生など若年層にアウトリーチを行うため、現代文明論センター「プロジェクト実践 B」科目の履修学生が AENET コレクションの紹介動画を制作

① 「Egyptian Project です」

<https://youtu.be/WLSRrGG606k?si=WCV1yE6kVj9Byh7k>

② 「2024 Egyptian Project 活動を紹介します」

<https://youtube.com/shorts/nxMf91Lue1Y>

3) X (旧 Twitter) 開設 4 年 フォロワー数 812

① 日々の活動やコレクション紹介、イベント案内等を行っている。

https://x.com/aenet_tokai?s=11&t=ZWmU4YO3uoC0uz23_SKFiA

② 学生団体「Egyptian Project」が毎週月・木の 5 限に AENET コレクションの遺物整理保存と古代エジプト語の勉強会を開催。活動は東海大学 Egyptian Project (エジプロ) に随時アップロードしている。

https://twitter.com/Tokai_EgyPro

4) 望星学塾にて松前柔道塾に通う塾生 (小学生) 対象にクリスマス会にて出前講座を行う。古代エジプト神話「イシスとオシリス」の読み聞かせ。2024.12.20

<https://www.u-tokai.ac.jp/ud-cultural-and-social-studies/news/23949/>

5) チャレンジプロジェクト (2025 年度より Tokai Co-Creation Challenge) プロジェクトの Egyptian Project による W S を開催。

Egyptian Project は講演会や W S を通じて大学が所有する古代エジプトの文化財を紹介し、古代エジプトなど古代史の啓もう普及に努める

学生団体である。2024 年度は 7 月、8 月期オープンキャンパス、10 月グローバルフェスタにて WS を行ったほか、8 月には大根公民館で小学生対象の WS、2025 年 2 月 11 日には神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）にて「古代エジプト体験!クイズで学ぶエジプト&パピルス葉と練り香水を作ろう!」を開催した。

<https://www.u-tokai.ac.jp/ud-cultural-and-social-studies/news/24154/>



Egyptian Project の定番 WS ヒエログリフの葉を作るう

また、2024 年 1 月 18 日にはテレビ神奈川「あっぱれ! KANAGAWA 大行進」に大学代表として Egyptian Project の学生が出演した。

【1/18（土）放送】テレビ神奈川「あっぱれ! KANAGAWA 大行進」で「TOKAI グローカルフェスタ」が紹介されます | お知らせ | 東海大学 - Tokai University

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-notice/1188619/>



10 月グローバルフェスタでの WS

研究活動・研究集会

1) 「東海大学 AENET コレクション東洋陶磁の分類

と研究」2023 年度より継続研究 東海大学・出光美術館・静嘉堂文庫美術館

- 2) 「フォトグラメトリーによる AENET コレクション遺物の 3D 化とバーチャルミュージアム構築」2023 年度より継続（2023 年度は篠原聰研究員との共同研究）
- 3) 「AENET コレクション所蔵古代エジプトの矢の構造研究」新規 TICAR/MNTC との共同研究
- 4) 「東海大学所蔵古代エジプトおよび中近東コレクション（AENET）の収蔵品検討会」2025 年 3 月 29 日
- 5) Günter Vittman, "Review; Marion CLAUDE, Akhmîm et la 9e province de Haute Égypte. Étude de géographie religieuse. Studien zur spätägyptischen Religion, 41, Wiesbaden, Harrassowitz (2024). ix-412 pp." *TOPOI*, 2025, forthcoming

展覧会・研究会・講演会・WS

1) 講演会

文化社会学部知のコスモス講演会 「さわれる! 文化財ーレプリカ制作から開ける新たな活用法ーモデラー×学芸員×研究者」（ディスカッサント 林柳太郎・篠原聰・山花京子）2024 年 1 月 31 日

文化社会学部「知のコスモス」講演会
共催：文明研究所・松前記念館

さわれる! 文化財

ーレプリカ制作から開ける新たな活用法ー
モデラー × 学芸員 × 研究者

入場無料
申込不要

文化財のレプリカはどう役に立つ?
博物館や美術館でレプリカはどう使われている?
精巧なレプリカ作りの極意とは?

講師：モデラー 林柳太郎氏
ディスカッサント：資格教育センター 篠原聰（准教授）・文化社会学部アジア学科 山花京子（教授）

日時：2024 年 7 月 31 日（水）10:55～12:35（2 時限目）
場所：東海大学湘南キャンパス 14 号館 14-103 教室

アクセス：
・小田原駅「東海大学」バス停より徒歩約 15 分。または「東海大学」バス（小田原駅）より徒歩約 10 分。または「東海大学」バス（小田原駅）より徒歩約 10 分。
・小田原駅「東海大学」バス停より徒歩約 15 分。または「東海大学」バス（小田原駅）より徒歩約 10 分。または「東海大学」バス（小田原駅）より徒歩約 10 分。

問合先：東海大学湘南キャンパス 14 号館 14-103 教室

企画：文化社会学部アジア学科

2) メディア掲載

「東海大学の Egyptian Project とはどんな団体なのか?」, 東海大学文化社会学部広報メディアテレビ班制作 2024 年 11 月ケーブルテレビ放映

Tryangle2024 年 12 月号 YouTube 公開! | 東海大学メディア INFO

<https://www.km.u-tokai.ac.jp/Tryangle2024>
年 12 月号 YouTube 公開! /



横浜市歴史博物館でのレセプションパネル

「アンデス・コレクションの

学術的研究と公開促進」 (コア・プロジェクト 4)

吉田晃章

- * 学術変革領域研究 (A) 「マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築」(総代表松本直子) 研究項目 B02 「認知科学と人類史学との協働による創造的人工物生成過程の解明 (アートと感情班)」(代表: 川畑秀明、分担者吉田晃章ほか) で科研費を獲得した (分担・新規)。
- * コアプロ代表者が、岡山県立大学真土士マウ教授、BIZEN 中南米美術館森下矢須之館長、イメージング研究センター栗野若枝氏、とともに笛吹きボトルを対象に構造の研究を実施した。
- * 2024 年度スチューデントアチーブメントセンターが運営する授業「現代教養講義」の授業を一部担当し、笛吹きボトルに関する最新研究を講義した (ビデオ映像)。
- * 文明研究所協力のもと、2024 年 4 月に横浜市歴史博物館展示企画「君も今日から考古学者 III」



横浜市歴史博物館での展示

横浜発掘物語 2024」において、アンデス文明のコーナーで収蔵品を展示(3月30日-6月23日)。
※会期が主に 2024 年度のため今年度の活動報告に含めた。

- * 5 月 24 日、横浜市在住の佐藤ご夫妻からアンデス文明に関する布製品、土製品、土器を計 11 点受贈。これに対し松前義昭学長からの礼状をお渡しした。遺物 2 点を X 線 CT 撮影し、真贋裁定を実施した。いずれもペルー北海岸の遺物であった。1 点は笛吹きボトルと呼ばれ、内部に水を入れて揺らすと音が鳴る土器で、現在研究している対象の遺物であった。専用保管箱を特注し、2025 年 1 月には資料整理を実施した。
- * 6 月 22 日、京都市在住の宮嶋ご夫妻からアンデス文明に関する布製品を計 18 点受贈。これに対し松前義昭学長からの礼状をお渡しした。寄贈者によるとペルー中央高地から南部高地の遺物とされていた。専用プラダン保管箱を特注し、2025 年 2 月には資料整理を実施した。
- * 横浜市歴史博物館の展示企画と関連し、8 月 16 日に「笛吹きボトル制作ワークショップ」(科研費プロジェクトのアウトリーチ活動) を博物館において初めて実施した。[<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1045468/>]
- * 10 月 17 日に大阪府立大阪北視覚支援学校で実施された「笛吹きボトル制作ワークショップ」(科研費プロジェクトのアウトリーチ活動) に、アンデス・コレクションを触察資料として提供 (新規寄贈品を含む)。計 3 回のワークショップを実施した。活動は、クリエイターにより記録映像として残した。
- * 市木尚利研究員とともにワウラ様式土器の図像研究を実施。11 月 24 日には同様式土器の展開



大阪北視覚支援学校で生徒作品の触察

写真の撮影を実施した。また天野博物館でワウラ様式土器の資料調査を実施した。

- * 吉田の担当する講義科目「文明論の展開（アンデス地域の諸文明）」（秋 semester）で、受贈品の土器を含め、レプリカ制作の授業でコレクションを活用し、演習を行った。
- * 2025 年 1 月 11 日には、学術変革領域研究(A)「マテリアマインド：物心共創人類史学の構築」全体集会にて、研究の成果を「古代アンデス笛吹きボトルの音と造形」と題してポスター発表した。
- * 2025 年 3 月には、アンデス・コレクション HP の第 8 回更新で、収蔵品約 100 点をアップロードし、総掲載点数が 800 点となった。

『文明』第34・35号（2025年3月発刊）

■内容のご紹介 第34号

巻頭言

- ・文明研究と総合知

（平野葉一）

論文

- ・ 死にゆく私の左手
「熱触療法」における他者を特定する不変項の喪失は所有感 / 主体感の喪失をもたらす
（今宿未悠・吉田快馬）

- ・ 1469 年スピラ工房印刷のプリニウス『博物誌』に描かれる白蔓文様

（松下真記）

研究ノート

- ・ 『東海大学文明研究所所蔵のコレクションの三次元計測とそのデジタルアーカイブ化の試み』
（鴨下真由・吉田晃章・今西規・山花京子・松前ひろみ）

■内容のご紹介 第35号（欧文誌）

- ・ Preface

（Toru Hattori）

- ・ International Symposium Report: The 5th Dialogue between Civilizations: Modernization and cultural diversity in France
（Toru Hattori, Mina Adachi, Yuki Takatori, Yoichi Hirano）

- ・ For whom does the Félibres sing? the Félibrige, the modernization of the Occ space and the people in the second half of the 19th century

（Yan Lespoux）

- ・ A study on acceptance of Social Capital in Japan

（Hota MORIYA）

- ・ Modernization of France and preservation of regional cultures

（Mina Adachi）

- ・ An essay on the modernization of southern France in the 19th century.

（Yoichi Hirano）

- ・ Role of Social Capital in Influencing Tourist Satisfaction and Revisit Intention in Hokkaido

（Soji Lee）

- ・ Synthetic knowledge in civilization studies

（Sei Watanabe, Yoichi Hirano）

- ・ A Study on the Use of Manga and Anime in Japanese Society

（Manasisha Pengsom）

所員の活動

田中 彰吾

文明研究所長、文化社会学部・教授

【執筆・翻訳】

- 田中彰吾『身体と魂の思想史——「大きな理性」の行方』講談社、2024年6月
- 田中彰吾・本田慎一郎『生きられた身体のリハビリテーション——身体性人間科学の視点から』協同医書出版社、2024年9月
- 田中彰吾「現象学的認知科学の可能性」『学ぶと教えるの現象学研究』21, 73-83, 2025年2月.
- 田中彰吾「eスポーツの身体論——コンピュータに媒介される拡張身体を経験」『思想』2024(10), 162-177, 2024年10月.
- Shogo Tanaka. Hand to face: A phenomenological view of body image development in infants. Japanese Psychological Research, 66, 403-415. 2024年10月.
- Atsushi Iriki & Shogo Tanaka. Potential of the path integral and quantum computing for the study of humanities: An underlying principle of human evolution and the function of consciousness. Global Perspectives, 5, 1-11. 2024年4月.
- ショーン・ギャラガー（田中彰吾訳）『身体性認知とは何か——4 E 認知の地平』東京大学出版会、2025年3月.

【報告・講演】

- 「エナクティブ・アプローチと認知科学」玉川大学脳科学研究所 脳・心・社会融合研究センター「心の哲学」研究部門第22回研究会（玉川大学）2025年3月14日.
- 「Hand to face: Body image development from a phenomenological perspective」Friday Lunch Seminar at Ci-Net (Osaka University, Osaka) 2024年12月27日
- 「即興パフォーマンスの時間的展開を考える」認知科学会・冬のシンポジウム「時間順向性から体験を考える」（東京大学）2024年12月15日.
- 「行為でつながり、身体で媒介される自己と他者」第8回肢体不自由療育セミナー（北海道文教大学）2024年12月7日.
- 「The enactive approach meets art: The phenomenology of one-time performance」Resisting the Divides: Contemporary Philosophy of Art (Brooklyn College, CUNY, New York) 2024年10月7日.
- 「間身体性から始める共感研究」生理学研究所研究会「間身体性共感システム研究会」（生理学研究所）2024年9月21日.
- 「科学者のためのエナクティブイズム入門」JST-CREST マルチセンシング「哲学の勉強会・第1回」（科学技術振興機構）2024年9月17日
- 「物語的自己から身体的自己への影響——フ란ツ・ファノンの経験から考える」日本心理学会第88回大会公募シンポジウム「ナラティブ・エンボディメントの概念をめぐる」（オンライン）2024年9月6日
- 「対話と身体性——大規模言語モデルにできることとできないこと」北海道大学研究集会 2024「言語教育におけるAI活用の展望と教師の果たす役割」（北海道大学）2024年8月26日.
- 「From an implicit sense of self to an explicit self-consciousness」Aware & Alive (ASSC27 Satellite Symposium (Hokkaido University, Sapporo) 2024年7月8日.
- 「The concept of Aida to describe one-time performance」Roundtable: Phenomenology and Psychology of Performance, 20th International Society for Theoretical Psychology (University of Belgrade, Belgrade) 2024年5月24日.

【その他】

- 日本認知科学会、運営委員に就任（2025年1月～）
- JST-CREST「マルチセンシング」研究課題「Narrative Embodiment」の推進のため、初台リハビリテーション病院と共同研究を実施

山本 和重

文学部歴史学科日本史専攻・教授

【執筆】

- 「書評 木村美幸著『日本海軍の志願兵と地域社会』」『歴史評論』第900号、2025年3月
- 「巻頭言 戦争と民衆」『東海大学文明研究所所報 2024』2025年3月

【報告】

- 「日中戦争期における馬匹の徴発と軍馬の表象」、文明研究所コアプロジェクト1・「戦争の人間学的研究」班第2回研究会、2025年2月27日

山花 京子

文化社会学部アジア学科・教授

【執筆・翻訳】

- Kyoko Yamahana, Ohara Museum of Art: Art and Architecture, 2025 英語版収蔵品目録（2025.03 刊行予定）, 分担執筆
- 鴨下真由・吉田晃章・松前ひろみ・今西規・山花京子, 「東海大学文明研究所所蔵のコレクションの三次元計測とそのデジタルアーカイブ化の試み」『文明』（研究ノート）, 2025年3月, pp.27-38

【学会発表】

- 「MIHO MUSEUM 所蔵「ファラオの横顔」再考ー美術的特徴と材質的特徴による再解釈ー」 日本オリエント学会大会 2024 年 10 月 13 日 阿部善也・山花京子
- 「古代エジプトのファイアンス製青いカバの再現」第 149 回無機マテリアル学会 2024 年 11 月 8 日 口頭発表（東海大院工）○陶 穎超・秋山 泰伸・（東海大院文）山花 京子
- 「石英粉を主原料とする可塑性に乏しい物質から立体造形を作る研究ー古代エジプトのガラス質物質「ファイアンス」製作の鍵を握るバインダーは何か」, 2024 年度総合研究機構 研究 Day, 2025 年 2 月 21 日 一般発表（ポスター）○山花京子（東海大文化社会学部）・秋山泰伸（東海大学工学部応用化学科）

【報告・講演】

- 「古代エジプトの宝飾ービーズの文化と鎖の文化」朝日カルチャーセンター新宿 2024 年 7 月 27 日
- 「さわれる！文化財ーレプリカ制作から開ける新たな活用法ーモデラー×学芸員×研究者」文化社会学部知のコスモス講演会（ディスカッサント 林柳太郎・篠原聡・山花京子）2024 年 1 月 31 日
- 「古代エジプトの宝飾ー聖なる青 ファイアンスー」朝日カルチャーセンター新宿 2024 年 9 月 7 日
- 「ラメセス 2 世 ライフヒストリーと巨大建造物」望星ゼミナール 2024 年 10 月 4 日
- 「ラメセス 2 世にまつわる黄金製品について」望星ゼミナール 2024 年 10 月 18 日
- 「古代エジプトを知るー黄金のツタンカーメンー」平塚市中央公民館市民大学講座 2024 年 11 月 26 日

吉田 晃章

文学部文明学科・教授

【執筆】

- 鴨下真由・吉田晃章・松前ひろみ・今西規・山花京子, 「東海大学文明研究所所蔵のコレクションの三次元計測とそのデジタルアーカイブ化の試み」『文明』（研究ノート）, 2025 年 3 月, pp.27-38
- 『東海大学文明研究所所蔵アンデス・コレクション土器資料 X 線 CT による保存状況調査報告（4）』, 2025 年 3 月 31 日、文明研究所（3 月末予定）

【報告・講演】

- 「科学研究費学術変革領域研究（A）「マテリアマインド：物心共創人類史学の構築」キックオフミーティング、計画研究 B02「アートと感情班」報告（共同発表）、2024 年 4 月 24 日
- 「科学研究費学術変革領域研究（A）「マテリアマインド：物心共創人類史学の構築」、研究全体報告会、「古代アンデス笛吹きボトルの音と造形」ポスター発表（共同発表）、2025 年 1 月 11 日

【その他の活動】

- 2024 年度講義科目「現代教養講義」の一部を担当し、笛吹きボトルに関する最新研究を講義
- 横浜市歴史博物館展示企画「君も今日から考古学者 IIIー横浜発掘物語 2024ー」、アンデス文明のコーナー展示（3 月 30 日～6 月 23 日）。最終日にはコーナーの「展示解説」を実施 ※会期が主に 2024 年度のため、今年度の業績に含めた。
- 横浜市歴史博物館で「笛吹きボトル制作ワークショップ」を実施（2024 年 8 月 16 日）。「アンデス考古学と笛吹きボトル」について講義。
- 大阪府立大阪北視覚支援学校で「笛吹きボトル制作ワークショップ」を実施（2024 年 10 月 17 日、24 日、1 月 30 日）。初回、「考古学とアンデス文明」について講義

篠原 聡

資格教育センター・准教授、松前記念館・事務室長代行

【執筆】

- 篠原聡「日本画シンドローム ローマ日本美術展覧会と鎬木清方の出品画をめぐる」（『美術研究』445 号、東京文化財研究所、2025 年 3 月刊行予定）
- 篠原聡「庶民の暮らしと卓上芸術 鎬木清方論の新たな地平（仮）」（叢書図録『鎬木清方の卓上芸術』（鎌倉市鎬木清方記念美術館、2025 年 3 月刊行予定）
- 篠原聡「Un- ルッキズムの視点 海の杜美術館のコレクションを手がかりに」（『紫陽花』第 8 号、美人画研究会、2025 年 3 月刊行予定）
- 『手の世界制作-5』図録（資格教育センター / 松前記念館、2025 年 2 月）

【研究発表・報告・講演等】

- 「笛吹きボトル制作ワークショップー古代アンデスの声にさわる」（共催・横浜市歴史博物館、2024 年 8 月 9 日）コーディネーター
- 「五感であじわう日本の美術 鑑賞体験ワークショップ」（三井記念美術館、2024 年 8 月 10 日）講師
- 事例報告「東海大学の実践事例」（文明研究所、直方谷尾美術館、2024 年 8 月 17 日）
- ワークショップ「彫刻をさわる時間」（大分県立盲学校、2024 年 10 月 7 日）講師
- シンポジウム「彫刻をさわる時間 素材と触覚」（大分大学主催、大分県立芸術文化短期大学人文棟大講義室、2024 年

11月8日) パネリスト

- ワークショップ「造形制作&彫刻メンテナンス」(北区文化振興財団、2024年10月13日、14日) 講師
- 研究発表「ユニバーサル・ミュージアムのアウトリーチ〜エシカルな学びの可能性」(ユニバーサル・ミュージアム研究会、オーレンプラザ高田、2024年11月17日)
- ワークショップ「彫刻メンテナンス」(秦野市、2025年1月21日) 講師
- シンポジウム「彫刻をさわる時間ー触覚にとって美とはなにか」(企画展「さわる」と「みる」の結節点、千葉県立美術館、2025年2月16日) 総合司会

【その他の活動】

- 神奈川県立平塚盲学校との連携による造形授業の実践(地域連携によるユニバーサル・ミュージアム普及事業、東海大学資格教育センター、2024年9月12日、26日、10月3日)
- 横浜市歴史博物館との連携事業「大学生と一緒に展示を楽しもう」(特別展「今日から君も考古学者」関連ワークショップ、2024年5月31日、6月2日、21日、31日)
- 「彫刻に触る☆体験ツアー」(松前記念館、2024年8月5日)
- 「博物館で日本画」講師(グローバルフェスタ、松前記念館、2023年10月14日)
- 企画展「手の世界制作-5 Innervations」展(ギャラリー青羅ほか、2025年1-3月)
- 第6回秦野丹沢野外彫刻展「野外彫刻コンクール『OMOTAN Sculpture Award』」審査委員

服部 泰

観光学部観光学科・講師

【執筆】

- Toru Hattori, "Preface," Civilizations, No. 35. 2024(3月末予定).
- Toru Hattori, Mina Adachi, Yuki Takatori, Yoichi Hirano, "International Symposium Report: The 5th Dialogue between Civilizations: Modernization and cultural diversity in France," Civilizations, No. 35. 2024(3月末予定).
- (共著)『令和6年度 長生村移住交流体験事業報告書』(3月末予定).

【報告・講演】

- Toru Hattori, Yoichi Hirano, Takuo Nakashima, Mina Adachi and Hota Moriya, "An Essay on the Use of Social Capital in the Development for Trans-locality — Through the Case Study on the '2024 Noto Peninsula Earthquake'—", ICICI2024(18th International Conference on Innovative Computing, Information and Control)(オンライン), 2024年9月12日.
- 平野葉一・中村朋子・服部泰・渡辺青、「下村寅太郎のブルクハルト解釈と学問論—文明論における人文知の一つの系譜として—」、第42回比較文明学会大会(明治大学)、12月22日。
- 服部泰、「分析結果および発表総括・今後の展開」、東海大学生による地域創生に関する調査報告会(長生村交流センター)、2025年1月31日。

【その他】

- 「長生村移住交流体験事業」における産官学連携のためのフィールドワークおよび提案の実施(千葉県長生郡長生村、(株)エイチ・アイ・エスとの共同)。
- 「長生村ながいきフェスタ」(2024年11月9日)における(株)エイチ・アイ・エスと東海大学との共同ブースの運営。
- 石川県鳳珠郡能登町鶴川地区「にわか祭」復興のためのクラウドファンディングプロジェクトの企画・運営。
- 石川県鳳珠郡能登町「のと寒ぶりまつり2025」(2025年1月19日)における連携事業の運営。
- 岩手県釜石市「釜石まつり」における「曳き舟まつり」ならびに「尾崎神社 渡御」に関わる保存活動、2024年10月19日および20日。
- 聖ヨゼフ学園中学・高校の高校生を対象に、観光教育の実践に取り組む「観光教育プロジェクト」の企画・運営、2024年7月24日、9月28日、11月3日。

安達 未菜

文明研究所・特任助教

【執筆】

- Mina Adachi, "Modernization of France and preservation of regional cultures", Civilizations, No. 35. 2024(3月末刊行予定).
- Toru Hattori, Mina Adachi, Yuki Takatori, Yoichi Hirano, "International Symposium Report: The 5th Dialogue between Civilizations: Modernization and cultural diversity in France," Civilizations, No. 35. 2024(3月末刊行予定).

【報告・講演】

- Mina Adachi, "Modernization of France and the sustainability of regional cultures", International Symposium, The 5th Dialogue between Civilizations: Modernization and cultural diversity in France, January 12, 2025. (Related Reports)
- 安達未菜「1870年以降のプロヴァンスとカタルーニャの地域主義者間の交流」、第42回比較文明学会大会(明治大学)、2024年12月22日。

【その他】

- 日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究（2024～2026年度）採択
- プロヴァンス、マイヤンヌ市のアンバサダー（親善大使）に任命される（2024年4月）
- フレデリック・ミストラル博物館研究員に就任（2024年4月～）
- International Symposium, The 5th Dialogue between Civilizations: Modernization and cultural diversity in France（第5回国際会議文明間対話）を東海大学品川キャンパスで開催、オーガナイザーとして主催（2025年1月12日）
- 公益財団法人公益推進協会「くら基金」若手研究者奨励助成（2024年7月～2025年3月）「文明間対話—フランスにおける近代化と文化多様性」を採択され、上記国際会議にてモンペリエ大学准教授ヤン・レスプ先生を基調講演者として招聘（2025年1月12日）
- 株式会社東海教育研究所「かもめの本棚」にて3回分のインタビュー記事「プロヴァンスの言葉が伝える幸せのかたち」掲載（第1回「陽気で心温かい南仏の人々」2025年1月14日掲載、第2回「明るい太陽と“テロワール”がもたらす恵み」同月16日掲載、最終回「祭りを通して継承されていく言葉」同月22日掲載）
- フランス革命研究会事務局員に就任決定（2025年4月～）

白川 美冬

文明研究所・特定助手

【執筆】

- 「王子ノ台遺跡」かながわ考古学財団編『足元に眠る神奈川の歴史』、有隣堂、142-143頁、2024年12月。
- 「真田・北金目遺跡群からみた塚越古墳—考古学における民俗方位研究の一試論—」『北金目からみつめる地域社会』シンポジウム資料集、47-56頁、2025年3月。
- 「金目川流域の弥生時代中期から古墳時代中期」『北金目からみつめる地域社会』シンポジウム資料集、73-84頁、2025年3月。
- 「真田・北金目遺跡群の竪穴建物」『北金目からみつめる地域社会』シンポジウム資料集、85-112頁、2025年3月。
- 「真田・北金目遺跡群の方形周溝墓」『北金目からみつめる地域社会』シンポジウム資料集、113-136頁、2025年3月。
- 「真田・北金目遺跡群の環濠」『北金目からみつめる地域社会』シンポジウム資料集、137-142頁、2025年3月。
- 「真田・北金目遺跡群の集落変遷」『北金目からみつめる地域社会』シンポジウム資料集、143-160頁、2025年3月。
- 「神奈川県厚木市愛甲大塚古墳の地中レーダー探査」『東海史学』第59号、31-36頁、東海大学史学会、2025年3月、（共著：白川美冬・北條芳隆・下ノ村和寛）。

【報告】

- 「●(赤彩円文)というデザイナー—赤黒円文パレス壺をめぐる—」第9回考古天文学会議、オンライン開催、2024年11月。
- 「真田・北金目遺跡群からみた塚越古墳—考古学における民俗方位研究の一試論—」若手考古学徒からみた神奈川、東海大学湘南校舎、2025年3月。
- 「真田・北金目遺跡群の集落変遷」シンポジウム弥生時代像をみなおす in 神奈川、東海大学湘南校舎、2025年3月。

【その他活動】

- 2024年度東海大学連合後援会研究助成金「日本古代における民俗方位観念の復元に向けた実証的研究」の採択、2024年4月～2025年3月。
- 神奈川県厚木市愛甲大塚古墳のレーダー探査（厚木市教育委員会と共同、4月15日）
- かながわ考古学財団主催「わが街の推し遺跡！！～聞いて！みて！こんなにすんごい私たちの街の歴史～」でのパネル作成協力（10月18日～20日、11月6日～18日）
- かながわ考古学財団主催の「楽しもう！考古学！！～こんなにある！神奈川の遺跡とその魅力～」でのパネル作成協力（12月21・22日）
- 吉野ヶ里歴史公園で開催された第10回考古天文学会議での司会（12月14・15日）
- 研究会「若手考古学徒からみた神奈川」を東海大学湘南校舎で主催、2025年3月1日
- シンポジウム「弥生時代像をみなおす in 神奈川」を東海大学湘南校舎で主催、2025年3月2日
- 愛知県三河安城市桜井古墳群の地中レーダー探査（安城市教育委員会と共同、3月10日）

三枝 信吾

文明研究所・特定研究員

【国内学会での報告】

- 三枝信吾「回復期脳卒中患者はなぜ歩行を重要と認識しているか—半構造化インタビュー法を用いた質的研究—」第22回日本神経理学療法学会学術大会、口述、2024年9月28～29日。



東海大学文明研究所所報 2024

発行人 田中彰吾

発行日 2025 年 3 月 31 日

発行所 東海大学文明研究所

神奈川県平塚市北金目 4-1-1 〒259-1292 tel.0463-58-1211 ext.3261・4426